ASUKA COMICS DX
ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
4
MASAKI SANO &
佐野真砂輝&わたなべ京
KYO WATANABE

ASUKA COMICS DX

ファイアーエムブレム™

4

M A S A K I S A N O &

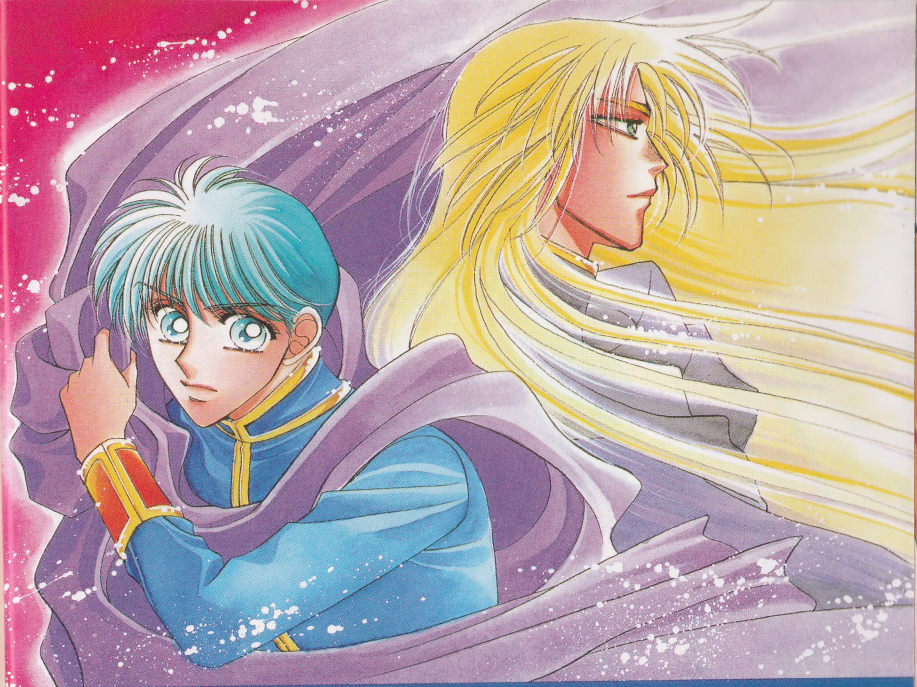
佐野真砂輝&わたなべ京

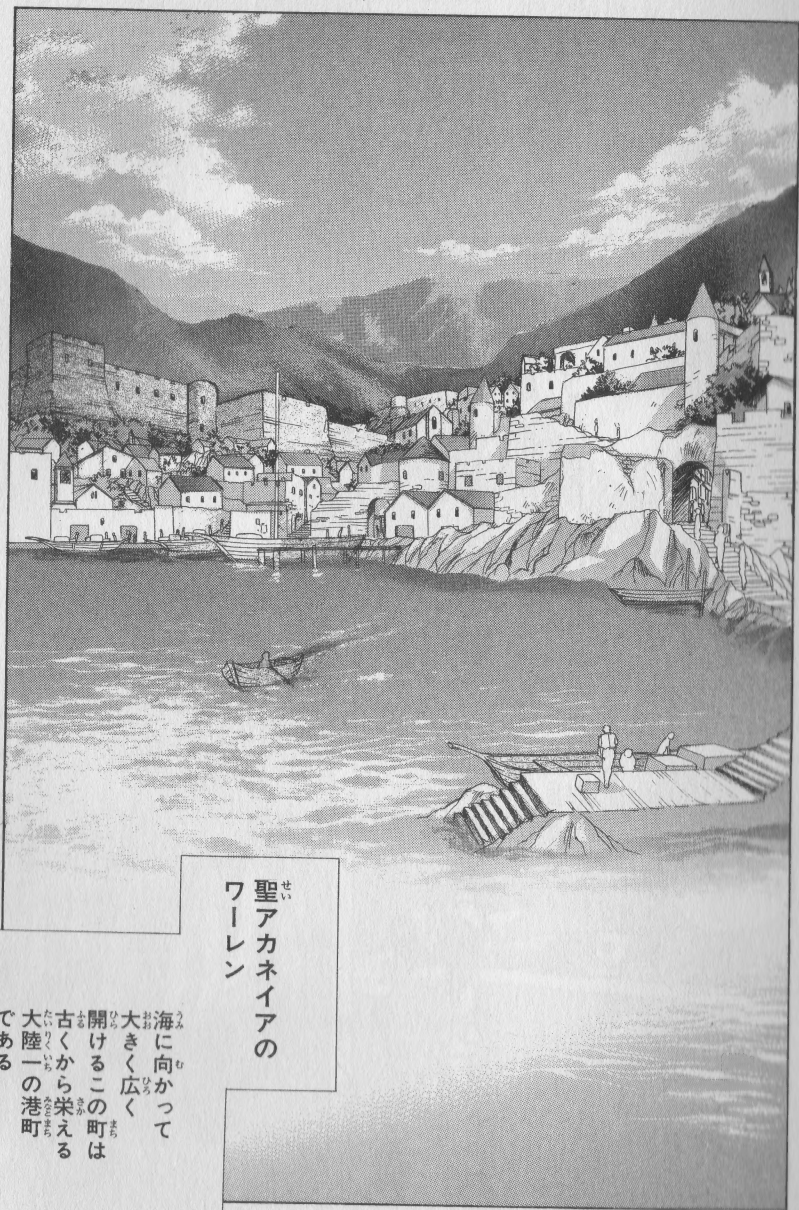
K Y O W A T A N A B E

C O N T E N T S

Design: EIICHI SUEZAWA

第10話
剣 I 楯
海の香りがする
タリスを思い出すね アベル カイン
はい マルスさま
このワーレンはもう聖アカネイアの地だけれど

ファイアーエムブレム™
©1990 Nintendo
第10話
けんじゅん
剣楯
I

FIRE EMBLEM

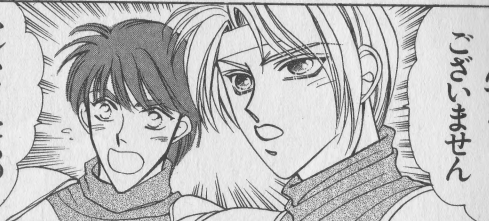
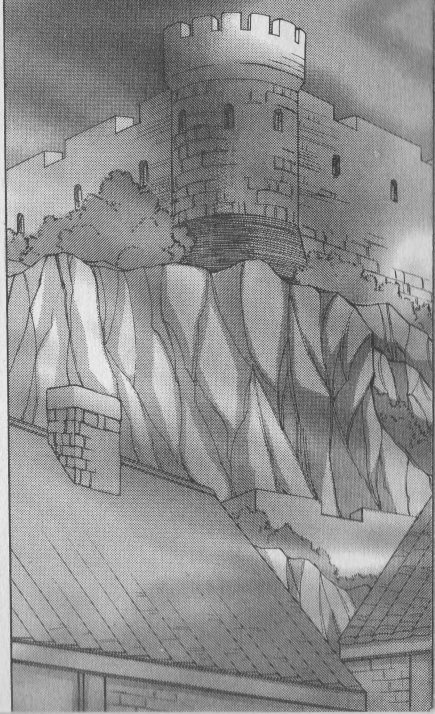
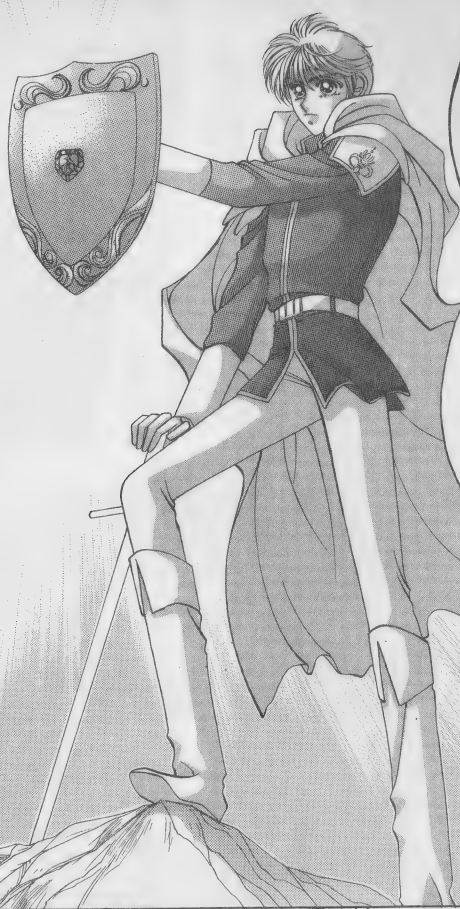
MASAKI SANO & KYO WATANABE

聖アカネイアの
ワーレン
海に向かって
大きく広く
開けるこの町は
古くから栄える
大陸一の港町
である

アカネイアの首都からもほど近いこの町はドルーア帝国が建った時 真っ先にドルーアの手に落ちた

ドルーアはワーレンから首都に抜ける唯一の公路の山あいに強固な砦をもかまえ

ドルーアの強大な力を後ろだてにこの地は支配されるがままであった

とは言ってももともと港町らしくいろんな国のいろんな人間がいろんな商売をしておりましたから

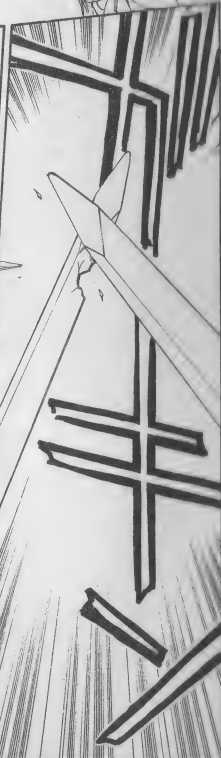
その中にドルーアが・ま・じ・っ・た程度なものでした

でも 大っぴらに反ドルーアを叫ぶことはできなかったろう? シーザ ラディ

君たちが準備をしていたおかげでこの地に速やかに入れたよ
礼を言う
とっとんでもございません
マルスさまたちのご苦労に比べれば我々のしたことなど！
着実に近づいてくる力強い解放軍の足音
日に日に力を増してゆく
必ず来ると判っているものを待つことは少しも苦しくはありません

黄金の盾にはめこまれた炎の紋章を掲げてワーレン入りされたマルスさまそして解放軍
あの日のあのお姿を私たちは生涯忘れません!
少し派手だったよね
ご立派でした!
マルスさまには不本意かもしれませんが効果はございましたよ
ジャ

オグマ
ああも堂々と解放軍に来られてはドルーア軍も居る場所がありません
動揺したところをそこにいるシーザやラディのように潜んで機会を窺っていた元アリティアの傭兵や
ドルーアに良い感情を持っていなかったワーレンの住民が追いたてた
彼らは自由を最も愛する人々ですから
この町にいたドルーア軍の多くはあの砦に退いていったようです
効果はございましたよ

気をつけろ
ガキ！
わ
ドン
あいつら
マルスさまに…
やめろ　カイン
騒ぎを起こすな
おしのび
なのだぞ！
剣
彼らは
―
傭兵？
ドルーアが
この町ワーレンを
支配下に置く前から
傭兵は
多く流れてきて
いたのですが
あちらこちらから
私兵を求める
人間も多く
ワーレンに
来ていましたから
傭兵も
港に集まる
「商品」のひとつ
なのです
ワーレンから退いた

なるほど
解放軍に
雇われたいと
思っているわけか
そういった
傭兵と軍の
仲介を商売と
している連中も
今のワーレンには
たくさんいます
マルスさまの顔も
判らぬくせに！
別に解放軍で
なくても
いいんだよ
ワーレンから退いた
ドルーア軍は
それでも
あの砦からは
動いていない
反撃の機会を
窺っているんだろう
兵も新しく
必要なはずだ
この町に集まる
傭兵たちも
そのことに
気づいてると
いうことだ
金次第で
ドルーアに
力を貸しても
よいと？
それが傭兵だ
自分の手の中の
剣だけを
信じるか

力だけがすべてとは思いたくないね
それではドルーアと変わらない
わああ‥
なんだろうにぎやかだね
ああ あれは闘技場です
対戦して勝ったら賞金が出る賭け試合をやってるんです

わぁあああああ
ま
参ったっ
赤の勝ち！
すごい人だねぇ
賭けには見物人でも参加できるそうですよ
やってるんです

ここで賭け金を払うんだね
この次の試合すごい賭け金になってるぞ
もう何人かを倒した奴なんだな
強いほど賭けの人気も賞金も高いんだ
本当に次の勝者はこいつなんだろうなぁバヌトゥじいさん！
まちがいない！
ジュリアンリカード！
あっ

マルスお…
ぼふっ
言っちゃダメっ
君たちも来てたんだ
へへこういうの大好きなんですよ
昔っから好きなくせに弱いんですけどジュリアンのアニキは
このじいさんのおかげで今日は勝ちまくり！
すげえカンがいいんです
我が名はバヌトゥ
お初にお目にかかるよ
レフカンディの谷からこっちずっとついてきてるって言うんです
それは…大変だったでしょうご老人
しかしなぜ？
高いんだ
なし！

案ずるな
一行に加えてもらいたくての
ええ?
もちろん騎士でも勇者でも僧侶でもない!駄目だ 無理だって言ったんですけど
そういうおぬしも同じではないか
う
レフカンディの谷の村で会った時に直に願い出るつもりだったのだが
あの時会うたのは別人であったからの
その後 もう怪我は痛まぬか?神剣の王子
我が身は人の形なれど人でない
故に 人に視えぬことも時には視えるわけであるが
ジュリアン
おれなんにも言ってねえって

案ずるな 儂の求めるものは ただひとつ
儂と同じように 竜の本性を 石に封じこめて 世界のいずこかで 未だ目覚めぬ 神竜族の生き残り 「チキ」という娘のみ
竜の本性を 石に
竜人族？ あのメディウスと 同じ
最後の子は 目覚めず
あのような輩と いっしょにするな あれは地竜族 わしは火竜族 じゃ

んじゃ変身してみろよ火ぃ吹けよ──っ
おーっ
じゃから竜石を失くしておるので無理だと何度も…
バヌトゥ
それで何故ぼくと行きたいのか？
おぬしは神剣の王子 神話を継ぐ者
そのために世界を巡ることになろう強くなるために神話を継ぐために
その旅に同行すればきっと北の地ではぐれた「チキ」に巡り会える
わしひとりでは国越えすらままならぬゆえ
チキというのは？

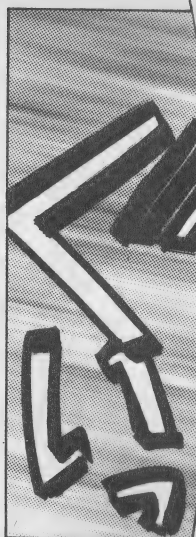
約束
儂の孫のようなもの
あるお方から
託されたのだ
成長を見守ると
約束をした
違えては
生きてる意味がない
そうだね
約束は
護らなければ
我が軍に
いることが
あなたの約束を
果たす手助けに
なるのならば
いればよいよ
バヌトゥ
マルスさま!?
こんな者を
信じるのですか
ただのヘンな
じいさんだって
平気だよ
ヘンな
じいさんとは
なんだッ
そうだ
ぼくは
信じた
ままならぬゆえ

裏切りは
許さないよ
バヌトゥ
ぞく
よいのですか
マルスさま
うん
メディウスは
もちろん憎い
けれど
竜人族すべてが
敵ではないような
気がして
ああ
バヌトゥを
仲間にした
ことかい?
「約束」のために
必死になっている
人を ぼくは
見捨てられない
から
……
ハーディンさま
には黙って
おきます

同志が増えて末端にまで目が届かなくなるのはよくあることだ
マルスさまの意思を我々が正しく伝えるようにしなければな
志願してくる兵たちにはおれたちもきちんと会うようにしよう
この街は人が多すぎる
ドルーアの息のかかった者がいつまぎれこむか判らないからな
たしかにこっちで「マルスさま」という呼び声が!
ざわ
マルスさまはいずこか
ぜひおれの剣技を見てもらわねば
早く出ましょう
ざわっ
うわ
いやおれこそが世界を救う解放軍にふさわしい
あれアベルたちとはぐれたね

そのようですね
日が暮れるまでに戻れればいいよね少し街を見ていこうよオグマ
アベルやカインも同じように楽しんでいればいいけど
カインはともかくアベルは心配性ですからねぇ
!
あれナバールだよね
ええ 奴も街に出てたんですね
誰か知り合いかな?

いたか？
いや
いない
きっと
オグマが
ついていて
くれるよ
そうでなければ
街に詳しい
シーザかラディが
見つけてくれて
いるだろうさ
だと
いいんだが
はあっ

たたた…
おまえ 最近ジェイガン隊長に似てきたよなアベル
責任と自覚が出てきたと言ってくれ
どん
おっ
ぐいっ
あっ
びょん
スリだこの…
わっ
いたあいっ
えっ?
ガッ

離せよ
この野郎っ
女の子
だったら
なんだよっ
言葉遣いも
そうだが
女の子がやる
ことではないぞ
スリなぞ
だってお金が
要るんだ 父さんに
新しい剣を
買うんだから
せっかく傭兵の
仕事が増えてる
のに…っ
君の父上は
傭兵なのか？
強いんだから

場所を変えよう
あたしの父さんはアカネイアの貴族の用心棒をしてたんだ
十の時に国が滅んで仕事も家もなくなってワーレンに来たの
今は父さんは酒場で働いてる
母上はドルーアに？
あたしを産んだ時に死んじゃった
ずっと父さんとふたりきり
本当に強くて強くて大好きなんだ
でも あたしを育てるために よろいも剣も売っちゃったから
だから あたしが父さんのために よろいと剣を買うんだ

あたしがどんなに働いたってぜんぜん足りないもん

今のワーレンには傭兵の仕事がたくさんある

今！今でなきゃ駄目なのよ

あんたたちもそうなんでしょ？

お声がかりはあった？

え

…うん まあ

雇い主は決まってるが

よかったじゃない！おめでとう!!

雇い主ってマルスさま?
おれたちって騎士には見えないのかなぁ
どんなに強くたって丸腰じゃ判んないし仲介人も声のかけようがないじゃない?
この町で毎日を生きるために酒場で汗だくで働いてる父さんはなにか違うような気がして父さんの生きる道は別にあるはずだよ
剣を持った父さんが一番父さんらしかった!
闘技場に行けばいい
カイン!?
ええ!?
いや君じゃなくて君の父上が!

お声がかりを期待してる連中がたくさんいたし仲介人も多く出入りしているそうだ
街中をぶらつくよりは確実なんじゃないかな
君に余計な心配をかけさせまいと言い出せないでいるのかもしれない
どちらにしろ勝てば賞金も手に入る剣が買えるぞ
ありがとうあたし父さんに言ってみます！
これであの子はスリをやらないですむと思うんだが
牢屋行きならまだしも気の荒い連中に手を出したら殺されかねない
闘技場での剣は先がつぶしてあったし殺し合いにはならないだろうが…

もし本当にあの子の父上が傭兵として雇われたなら
解放軍にしろドルーアにしろすぐに戦場に行くことになる
あの子はひとりぼっちになってしまわないか？
今日の闘技場の様子ではお声がかりもそうあるように見えなかったぞ
大丈夫だよ勝って賞金がもらえるといいいな
そうだな
マルスさまずる――い！
昨日街でこられたでしょうっ遊んででしょうっ

わたし これでも解放軍の志願兵の面接とか物資の補給とかお仕事してたんですよーーっ
ごめんごめん じゃあ 今日は いっしょに闘技場に行こうよ シーダ
えっ
えって なに マリク
いえ あの 今日は…
白！ナバールの勝ち 3人勝ち抜き！
すごいわ ナバール
今日の対戦表どこかで見た名前ばっかり ぼくに内緒で！

どの対戦も
知ってる名前に
賭けてやる
負けたら
承知しない
からな
出なくてよかった
ふふふ
マルスさま
王子が
天空騎士と
魔道士と
見に来てるぞ
あっ
バレたか
マリクの
やつっ
二人目と
四人目のとき
危なかったんだ
実は
ますます負けられんっ
カインが
一番多く
勝ち抜いている
んだよな
腕だめしの
つもりが
けっこう本気だよな
みんな
やっぱり 剣の道が
おれの生きる道だ
おまえが
つきあうとはな
ナバール

なにか
嫌なことでも
あって
気を晴らした
かったかな?
なんだ
それは
気にするな
ただ
覚えおけ
おまえは
おれたちの仲間で
マルス王子の
剣のひとつだ
向かう敵を
間違うなよ
マルス王子の
前には
まずおれがいる

解放軍のオグマだ
おれが相手だ
いや おれだ
あいつを倒せば一気に名が上がる!
仲介人に声をかけてもらえるぞ
敵にもすごい人気みたいオグマったら
あちこちから声が
命知らずな
他の者はさすがに解放軍だって正体隠してますけどオグマは隠しようないですね
あのキズは
剣が小さく見える…
他の皆も純粋に強いので対戦相手として人気があるみたいですよ
ふんふん
あ 終わっちゃったわ
赤 オグマ 4人抜き!

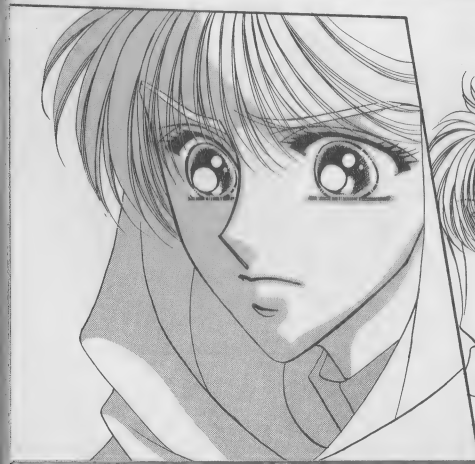
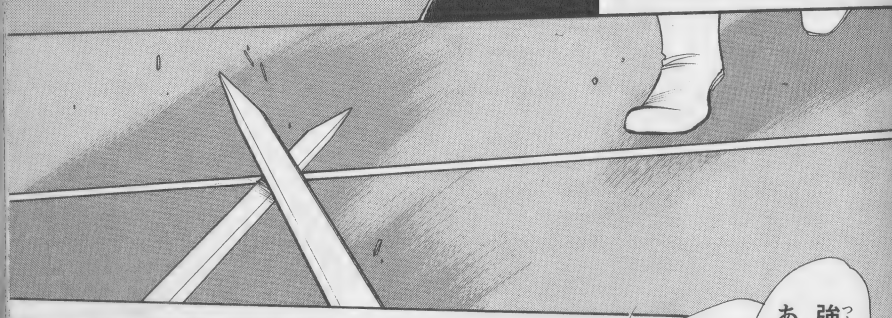
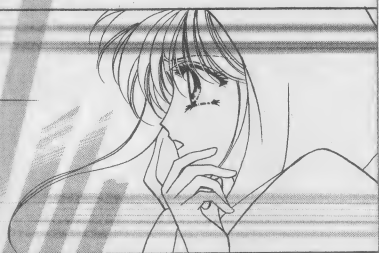
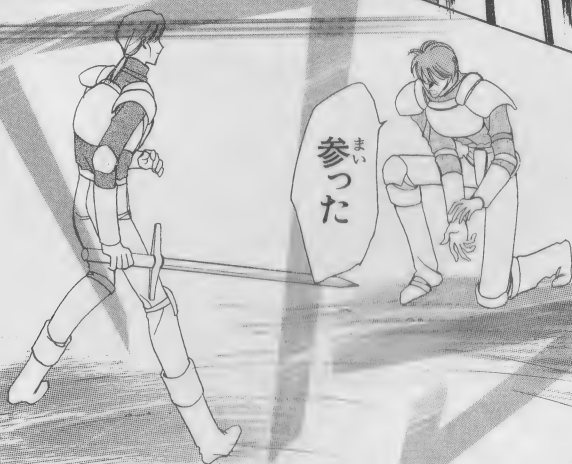
組み合わせの関係でカインが一番多く試合して勝ってる
この次の次にまた出てくるね
そろそろ控え室に行かないと
がんばってね父さん
あの子
そうか父上は闘技場に参加することになったんだな
ああこの次の次の試合だもうすぐだな
え？

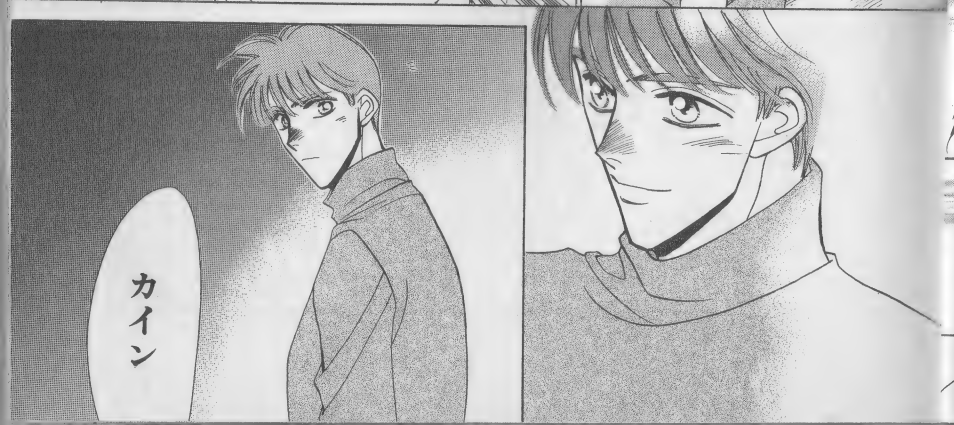
5人勝ち抜きの騎士らしい手強いな
この次の次の試合
5人勝ち抜き
おれが相手なのか!?
大丈夫だよ父さん強いもの!
勝ってきっと仲介人から声がかかるよ
また剣士として戦えるよ!
お声がかりなどなくても勝てればいいさ

おまえに髪飾りのひとつでも買ってやれる今よりもう少しだけましな生活ができる
おれは今の生活がけっこう気に入っているんだが
駄目だよそんな弱気!
父さんは勝つの強いんだから!
あたし絶対信じてるから!
赤 カイン
白 ラルク

わあ
ああ
ああ
赤負けろーーッ
カインより相手のラルクが勝つ方が配当が大きいんですね
むッ
がんばれ白ーーっ

！
あの子は…
まさか あの
カインの相手は
あの子の父上
──!?
強い──わ
あの騎士！

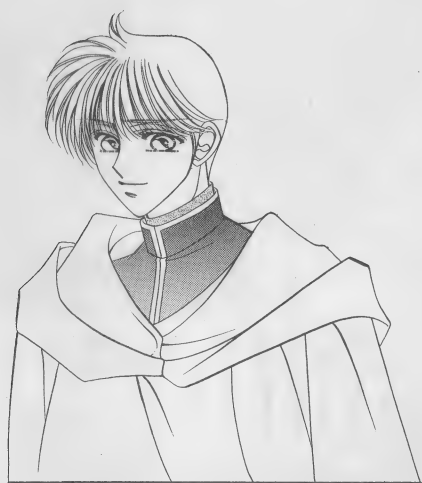
キン…
参った

いてて…
ザッ
あんたを雇いたいんだ
あの5人抜きの騎士を倒したたいしたもんだ!
軍へ入るんだおれがクチをきいてやるよ
軍から仕度金が出るからそのうちの1割がおれの取り分で…
やったぁ父さん!!
カイン

マルスさま！
よくも　ぼくを
一文無しに
してくれたな
おれに賭けていて
くださったの
ですか！
申し訳ありません
まだまだ
未熟で…
アベルに
聞いたよ
・・・やっぱり
わざと
負けたね？
確かに　あの
相手は強かった
勝負としては
互角だった
かもしれない
でも本当に
それでいいの？

いいんです
ちゃんとお声がかりもあったようですし
きっとあの子も喜んでいるでしょう
おれの剣が退くことで生きる人がいるのを誇りに思います
ぼくは
ただ単にカインが弱いと誤解されるのが気に入らないだけだ
ぷう
大丈夫です

おれは本当は強いんですから
誰よりも誰よりも強くなろう
マルスさまはご存じでしょう？
おれは強いです
あの目の前のわずかな確かな幸せさえも守れるように
いつまでワーレンの支配者ぶっているつもりやらカナリス将軍どの
☆第10話／剣楯Ⅰ☆END

ファイアーエムブレム™

第11話 剣盾(けんじゅん) II

おーーい！
やあ
会えてよかったあ
お父上は剣士として働けるのだって？おめでとう
あんたたちのおかげだよ闘技場のこと教えてくれてありがとう！

今日にもワーレンを出るからいろいろ忙しくって
!
君もいっしょに行くのか?
うんどこに行くのかはまだ教えてもらえないんだけど
最初っからついてくつもりだったから!父さんといっしょに行けるんだ
いい勝負だったよね騎士さま?
君のお父上は強い
ご武運を
またどこかで会えるといいね
さようなら元気でね

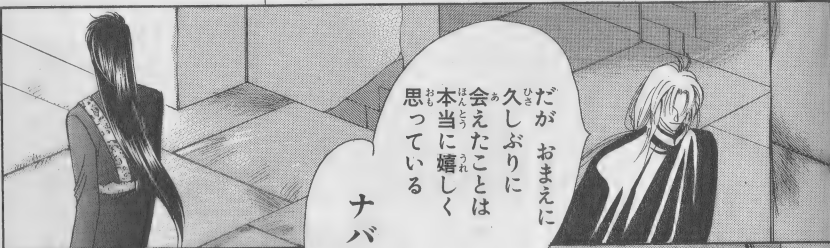
あの子は戦争より父上と離れることの方が悲しいんだろうな
子供は皆そうだ
子供だけじゃない皆自分と近しい者と離れることは恐ろしくて寂しい
だから戦わなくては敵と
おれはきっと最後まで
お前と一緒にマルスさまのお側にいる気がする
アベル

なら
途中で
へばるなよ
カイン
おれの方が
体力は
あるんだぞ
ほら
そういう風に
すぐに頭に
血が上るから
ジェイガン隊長にも
気をつけるよう
言われてたじゃ
ないか

偵察か？
けっこう働き者だなナバール
傭兵の集まりぐあいは上々だな
貴様こそ何をうろついている
目障りな
ただの通りすがりだよ
昨日も会ったがね
はっ
あ・の・グルニアの黒騎士がただの通りすがりか

カミュ
ドルーアの犬と呼んでくれてもかまわんよ
聖アカネイアの生き残り王女ニーナを救い
それでもドルーアの騎士として求められる男
実際ワーレン入りした解放軍の中におまえを見つけて
偶然居あわせたのを幸い懐かしさにまかせて呼び出してみたものの
出会い頭に斬られはしまいかと内心冷や汗ものだったからな
ただの通りすがりをいきなり斬るものか

闘技場での活躍ぶりを聞いたよ
よほど私に会ったのが気に喰わなかったのかと思って
ああいう場はおまえ好きではなかったろう？
何かいやなことでもあって気を晴らしたかったかな？
今の私はどこで何を聞きどこで何をしゃべろうと自由の身だ
たとえば聖アカネイアに抜ける道をふさいでいるあの砦にワーレンの民が解放軍と追いたてたドルーアのこと

グルニアの
金持ち貴族の
カナリス将軍
…だったな
昨日 貴様が
くれた情報だが
こっちだって
もう知っている
ふん
アカネイア・パレスを
陥とす時にも
参加した
名家当主だが
他の将軍の
細君に手を
出しまくって
ワーレンに
飛ばされた
恥知らず
もう後が
ないから ここで
ワーレンを
取り戻さ
ないと
手持ちの兵と
傭兵とで
3日後には
ワーレンを再び
襲うという話
貴様
まだ おれを
試すか
3日後

私の心はいつでも
ただひとつ
「ドルーア万歳」
ドルーアの名を
汚すものが
嫌いなだけだよ
騎士としてね
だが おまえに
久しぶりに
会えたことは
本当に嬉しく
思っている
ナバール

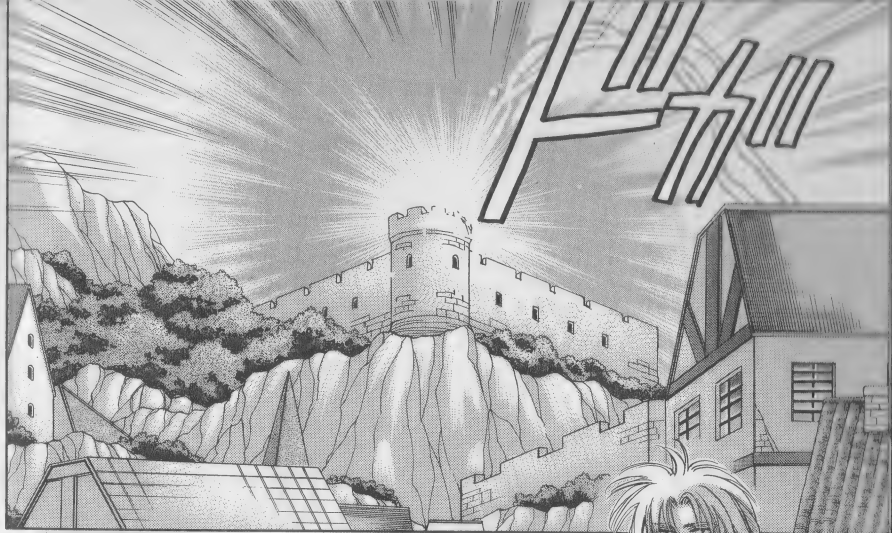
ギリ
ゴゴーオッ
3日後に奇襲をかけてくる?

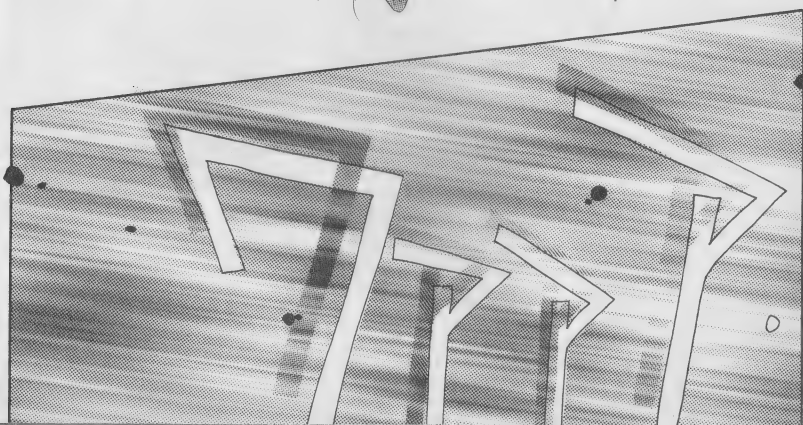
故(ゆえ)に明日中(あしたじゅう)にもこちらから仕掛(しか)けるがよいかと
なんと
ナバールその情報(じょうほう)はいったいどこから…
ナバール!
ナバール

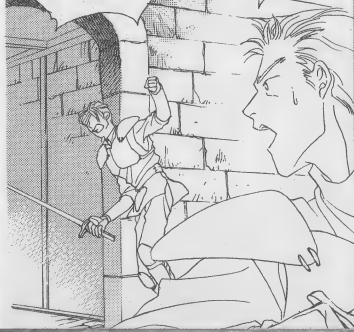
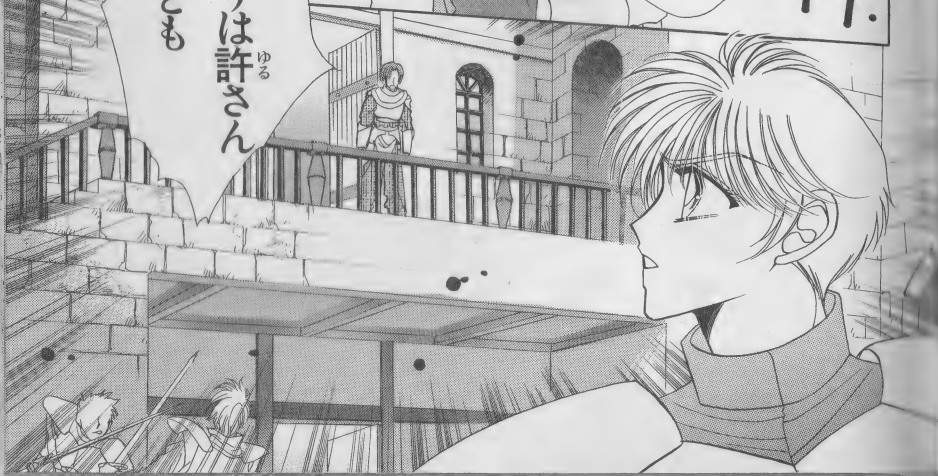
おまえの手の中に
ある剣は
なんのための剣か？
マルス王子の敵を
斬るためのもの

信じているよ
ナバール
ありがとう
はっ
総員に
内密に伝達を
明日
陽が落ちる頃
山あいの砦を
攻める
一気に陥とすぞ

目指すは砦のその向こう聖アカネイアの首都
アカネイア・パレス!!
信じているよ
あの王子は見かけによらず怖いな
そう思わんか?ナバール
死に神を地獄に誘った人間だ
おや
イラつきはおさまったようだな

どいつもこいつも人の事よりも己の足元をしっかり見ておけ
見てるさ
どいつもこいつもて？
地を踏みしめてその先頭を我らがマルス王子が行くぞ
戦場へ！

ドッカッ
落雷
ではないな魔道の雷か
解放軍にいたなカダイン帰りが先制攻撃だな

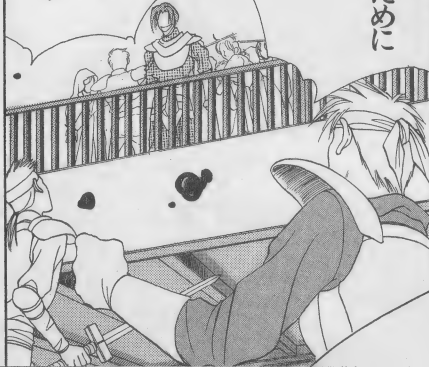
敵となるか
ナバール
それも
いいだろう

ナバールの情報通り傭兵が多いな
軍として統制がとれていない
カナリス将軍さえ叩けば!
将軍を捜せ!!
解放軍が城内に入りましたッカナリス将軍
くくそっ傭兵どもは何をしているッ
奴らを最前線に出せそのために高い金で雇ったのだぞ
まっまだ充分な準備ができていないと言って…

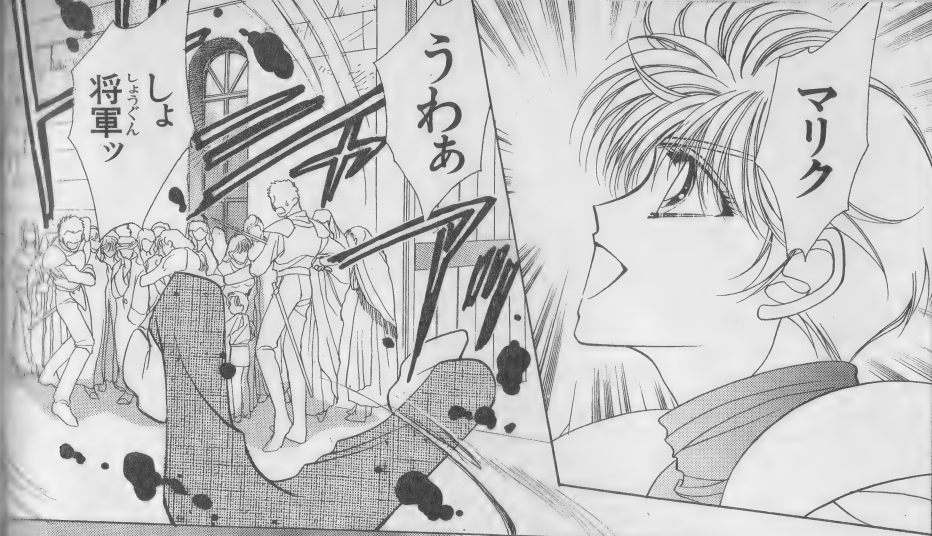
こんなに早く戦いが起こるとは
契約違反だと投降する者も
準備不足なのは我らも同様です将軍
将軍！
騒ぐなッ
準備不足だと？私を甘く見るなよ愚か者どもが！
どこへ行く貴様ッ
金なら返すよ命まで預けた覚えはないからなッ

傭兵の心配をしている場合か
うわ
剣を捨てる者を我々は傷つけない
ドルーアであろうとカナリスと契約した傭兵であろうと同じだ
もとより急ぎ金で集められた兵たちです
これだけ不利な状況であればすぐにでも…
ワァァァ
裏切りは許さん傭兵ども

将軍
あれがカナリス将軍?
ひとりとて逃げてみろ傭兵ども
ばっ
おまえたちの家族の命はないと思え!!
なに!?
貴様 そのためにおれたちの家族を!!
ただで余計な人間の面倒をみると思っていたのか馬鹿者がッ

!
あの子
さあ戦え!!
くっ…
なぜここにいる
まさか
そうか貴公は解放軍の騎士だったのか

金で雇われ人質を取られている身とはいえ
闘技場ではなく戦場で解放軍の騎士と戦えるとはな
く
あの相手はカイン!!
駄目だカインはあの騎士を倒せない
おれに代われカイン
来るなアベル・・・

アベル
おれの
おれの剣の
迷いのせいで
傭兵でも
貴公は今は
ドルーアの
騎士
ならば
おれは
負けるわけ
にはいかない
アリティアの
騎士として
ドルーアに
負けるわけには
いかないいんだッ
父さん!!

!
風
天空騎士か
馬鹿め
こんな近くまで
……

いや
この風は天馬のはばたきだけじゃない
聖剣裂風

マリク
うわぁ
しょ
将軍ッ
剣を捨てよ
捨てるならば
卑劣なる
カナリス将軍に
従っていた罪は
今は問うまい

聖アカネイアに向かって出発！
大丈夫かアベル
すまないおれのせいで……
気にするなと何回言わせる気だ
あの子
まさか
カイン！

ご武運を騎士さま
父さんの死に顔安らかだった
きっとあれが本当の騎士の顔だね
騎士として戦ってくれてたよね ありがとう
悲しいけど父さんの子としてがんばって生きてく
…だから負けないでよ
君は強いね
でも君が生きていけるように
おれたちは戦っていくから
負けるわけにはいかない
ドルーアには負けないから

この強さを
無駄にはしない
やっぱり
カインは
強いよ
ぼくの
知ってる
とおり
もっともっと
強くなって
みせます
剣も
剣でなくても
いつか
いつか
国を世界を
花で飾ろう
ささやかな 確かな
幸せのために
☆第11話／剣楯II☆END

逃げろ
ジョルジュ
おまえだけ
でも
やっとの思いで
取り返した
我が王家の宝だ
こんなところで
ドルーアに
やられて
たまるかっ
行くんだ
ジョルジュ
マルス王子の
解放軍と
合流しろ
!
その宝は
おれたち騎士が
持っていても
しょうがない
ものだからな
アストリア
おまえには
ミディアに
よろしく
伝えてくれ
頼んだぞ
ジョルジュ
ニーナさまの
御為に
ジョルジュ
おまえこそが
——
第12話
火竜
I

ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
第12話
火竜 I
かりゅう

シーダの偵察に
よると
このワーレンの砦から
アカネイア・パレスに
続く唯一の公路の
山ひとつ向こうに
ドルーア軍が
集結しつつあるそうだ

待ち伏せか
その軍勢を倒したあともアカネイア・パレスを控えて戦いは激しくなることでしょう
あっあのっ
なんだ?ゴードン
弓手兵部隊の矢が底をつきかけています
弓も…
ワーレンの街で各自充分に補給しろと言ったはずだが
先の戦いで思ったより矢を使ってしまって…

戦況を読み違えたか！
未熟者が
申し訳ありま…
頭を下げてすむ問題ではないぞゴードン
待ってくれみんな
なにしろゴードンは若くて経験が少ない
ぼくと同じでね
今回は大目に見てやってくれないかな
…しかし弓手兵たちの命にひいては我が軍の危機にも関ることだ
そんな重大な場面に遭遇する前でよかったと思おう
王子…！

キィ
そう かえって好都合かもしれない
マルスさまもしや
はっ
ペラティへ向かわれるのですか!?
ワーレンの沖合に浮かぶ島々ペラティ――
昔は剣匠が多く住みつき名だたる名剣も作られたとか
しかし何故
ペラティを支配するドルーアの将軍は

竜人族の血をひくと噂されているそうだ
!
このぼくが行かないわけにはいかないだろう?
ドルーアを建てた竜人族の王暗黒竜メディウスが宿敵であるこのアリティアのマルスが!

姫さま
お役目
ごくろう
さまでした
レナ
ペラティの
神殿が見えるわ
レナ
ええ
かすかに力を
感じます
何が祀られて
いるのでしょうね

マルスさまに
仇なすものなら
私が
神殿ごと壊すわ
まあ 姫さま
シスターの
私の前で
そのような
レナは
違うもの！
ジュリアンに
聞きました
あのペラティに
座する
ドルーアは
竜人族だとか
ええ
だから きっと
次の戦いは
ペラティ
なのだわ
相手が
竜人族でも
竜人族なら
なおさら
負けられないわ！

でも あのバヌトゥが本当に竜人族ならどうして私たちを襲わないのかしら？
ざわ
四の島へ向かう軍の指揮は？
オグマだ
ざわ
船の準備は…
落ちこんでるね・・・マルスさま
ぎくっ
ばさっ
ふう
ゴードンが気の毒ですよマルスさま
くすくす
マルスさまっ
本物の王子が身代わりとなる「影」といっしょにいては「影」の意味がっ
それにこの上陸作戦では敵を惑わすためにもっ
まだ大丈夫だよ

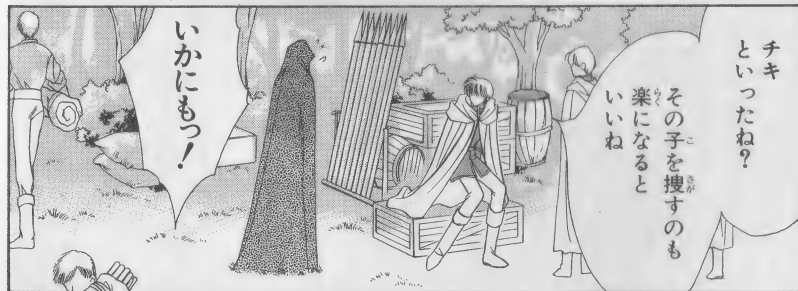
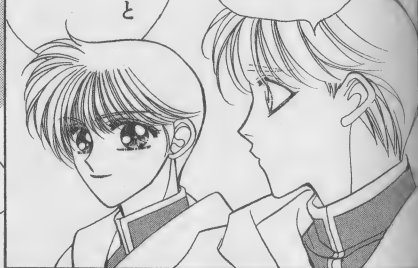
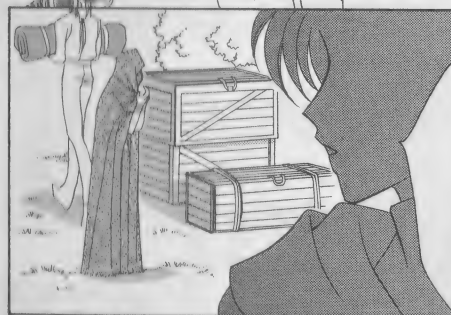
今回はとりかえしのつかない失態をさらしてしまいました…
好都合だと言ったよ
山あいの公路を抜けるのは危険が多すぎるからね
ペラティを経由して海側のディールやその辺からアカネイア・パレスに近づいた方が敵の目もくらましやすいし
AKANEIA PALACE
DEAL
PELATY
AKANEIA
がくーっ
それに何しろ弓手兵部隊の矢がないしね
ニニ
おお これは3人王子とは珍しい
バヌトゥ

そう
警戒してくれるな
確かにわしは
竜人族だが
おぬしたちの
敵になろうとは
思わんよ
「チキ」を捜す
旅を続ける
この老いぼれを
同行させてくれて
感謝しているのじゃ
恩返しも
ままならぬ身なのに
バヌトゥ
ぼくたちは
竜人族のひとりと
もうすぐ戦うよ
あなたが
本当に竜人族
だというなら
仲間を裏切る
ことになるんじゃ
ないのか？
裏切るも何も
そも竜人族は
おぬしたちと
戦おうとした
ことなどないよ
メディウスたちは
滅びゆく運命に
抗っておるのだ
竜王ですら
運命を受け入れ
持てる力を
来たる者たちへ
譲ろうとしたのに

来たる者たちの名こそ人間というが
持てる力とは魔道の力のことですね
伝説の通り――
竜王が自分たちの運命を悟った時人間たちはまだ若い種だったが
その生命の放つ輝きは竜人族をはるかに超えておった
美しく強くもはや愛しくさえある――
認めぬ
我ら竜人族が人間ごときに劣るなど絶対に認めぬ!!
メディウスめは100年以上前からそしていまだにその考えから抜け出せずにおるらしいわ
奴ら地竜族は戦いを好む性質であったからの
メディウスは竜人族の長ではないのか?

なんという無礼なことを!!
竜王の血筋は神竜族にのみ受け継がれるのじゃぞっ
くわっっ
だって竜人族のことはぼくたちはあまり知らないから
たとえば力を封じこめているという竜石のこととか?
共に生まれるのだ
離れてもわしらは死にはせんが手の内になければ竜にはなれぬ
あれさえあればこの老いぼれとて役に立とうものをっ
神竜族についで知恵者で心優しき火竜族であるわしの竜石は赤く輝きそれはそれは美しい…
はああ
ごそ
あっ　そうだ
これって本物の竜石なのかな
ころん.

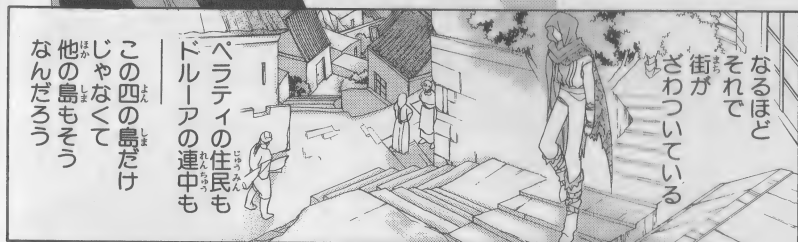
こっ
これをどこで手に入れられた王子っ
えーとオレルアンだったっけ
道でぶつかった人にもらったんだ
ねマリク
持っておいでだったんですかマルスさま
うんあの人が元気出せってまずは信じることだって言ってくれただろう?
今この国にはアカネイアのニーナさまとオレルアンのハーディン公そして神剣の王子アリティアのマルスさまだっているんだぜ
お守りみたいで捨てられなくて
名も知らないもう二度と会うこともないだろう

もう何も心配いらねえ
これからこれからだよ
あの出会いがぼくに顔を上げる勇気をくれた
これはまさしくわしの竜石ッ!!
へえそれはよかった
お役に立てますぞ王子っ
チキといったね?
その子を捜すのも楽になるといいね
いかにもっ!
なんたる偶然なんたる運命!!
竜王はわしに王子と共に戦えとおっしゃっておるのだっ
ざわっ
大丈夫かじいさん

よろしいのですか
マルスさま
あの石
バヌトゥのものだと
いうのだから
返すのが本当
だろう？
…マルス王子は
竜人族が
仲間にいて
平気なのですか
メディウスとは
いくら種族が
違うからって…
それに本当に
竜人族かどうかも
皆も言っている
のですが
私も信じられません
エルカイトが
傷を作ったとき
手近にあった
薬草で手当てを
してくれたと
シーダが感謝してた
「役に立ちたい」と
言っているしね

マルスさまがよろしいのでしたら…いいのですが
「影」の一船が出るぞ――っ
わっはいっ
名も知らない世界の多くの人々
あなたたちの声が聴こえるそれがぼくの力になる
顔を上げて前を向いて剣を取って走り出そう
ドルーアからこの世界を奪い返すために

奴らが――来る
奴が来る!!
ギャッ
我が王メディウスさまを100余年前封じたあのアンリの血をひく者
憎きアリティアのマルスが!!

このペラティの地を
あやつの血で
染めてやろう
我が王のために
伝説は
この地で
終わるのだ
このマヌーの
手によって
我が
メディウスさまの
ために!!

逃げろ
ニーナさまに
ジョルジュ
おまえこそが
――……
きさまぁ
ドルーアに
たてつくかっ
さては
解放軍の
手先だなッ
そんな
滅相もない…っ

ああ なんてこと 神剣の王子さま マルスさまっ
ガッ
早く早く お助けくださいまし ――
解放軍が ――来るのか
なるほど それで 街が ざわついている
―― ペラティの住民も ドルーアの連中も
この四の島だけ じゃなくて 他の島もそう なんだろう
解放軍 ニーナさま ――
!

ばさ
おい 今なんと言った
ドルーアに牙を向いた
聖アカネイアの王女の名ではなかったか？
ぐい
黄金の髪
碧い瞳
アカネイア人か！
戦いに敗れ
命からがらこの地に逃げのびてきたのです
ご容赦のほどを…
ふん
ドルーアにたてつくからそういう目に遭うのだ
馬鹿者が！

まったく その通り
何故 このような目に 私が遭わねば ならぬのやら
ワーレンから 船出なさる わけだろう
そうすると この島が いちばん近い
いや それは ドルーアも 判ってるから
マルスさまが 来てくださりさえ すれば なんとかしてくれる
ドルーアを 絶対 追っ払って くださる！

その妙な
「自信」はなんだ?
アリティアの
マルスさまは
島ひとつ
片手で
持ち上げられる
ような力の
持ち主で
あられるのか
いかんな
ニーナさまより
炎の紋章を
授かったお方だ
ニーナさまに
お仕えするつもりで
いなければ
ばさッ

アカネイア
王家の宝
聖炎弓
こんな早く
解放軍に
合流できるとは
一刻も早く
マルスさまに
お渡しして
ニーナさまを
御安心させねば
やっと
解放軍と
共に戦える
あんなに
必死の思いをして
聖炎弓を
取り返した甲斐が
あったな
ミディアに
よろしく
伝えてくれ

誇り高いアカネイアの騎士たち
ニーナさまのために滅んだ国のために奪われた宝をドルーアから奪いかえし
逃げろおまえだけでもジョルジュ
王家の宝聖炎弓には弦がない
普通の弓用の弦では駄目なのか
アカネイア一の翔弓兵おまえが持っているべきものだジョルジュ
おまえに委ねる
無茶を言うな
矢を使えない弓で何を射ろというんだ

いくら翔弓兵でも
何もできない
おれが持っていても
しょうがないでは
ないか
馬鹿者が
生き残るのは
おれでなくとも
わぁ
天馬だ
だっ
天空騎士だ
解放軍だ!!

山の向こうへ
行くぞ
追え
――っ
天空騎士が
来たって？
城も神殿もない
この四の島へ!!
集合が
かかってる
早く来い！
しかし
見張り台から
離れては…
！

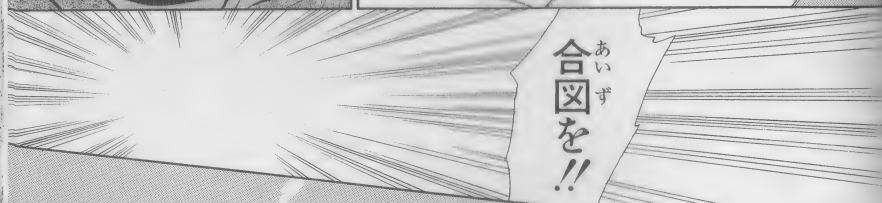
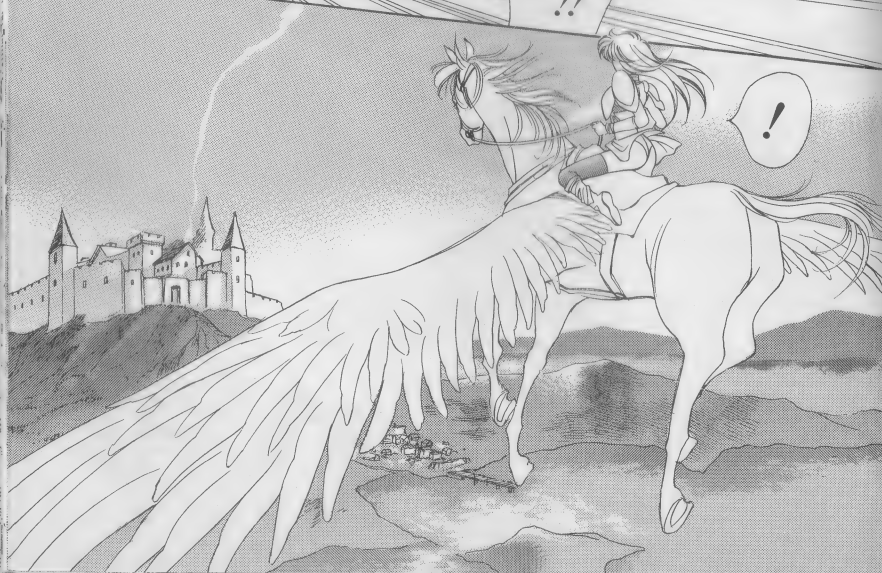
船!?
二の島
三の島にも
解放軍は
3軍に分かれて
上陸してくる!!
マルス王子の
乗っている船は
どれだ!?
それをまず
沈めろっ
そっ それが
どの船にも
それらしき
人物が…
そろそろ
来るわよ
エルカイト

二の島に向かう船に
マルスさまの「影」の
マリク
三の島に向かう船に
ウェンデルさま
魔道の雷!!

派手だな
他の船は
四の島へ向かう
・・うちには
弓手兵隊が
いる！
入江に
つっこむぞ
上陸準備ッ

解放軍だ
解放軍が上陸してきたぞ
三つの島に――
わ
三の島
思っていたより手勢が多いですねハーディンさま
あ
思っていたより敵を倒せばすむことだ！
あ

二の島
一番小さいこの二の島をまず制圧しろ
この二の島を足場にして
一の島の城を陥とす!!

二・三・四の島の3つの島に分かれて上陸し我が軍を混乱させながらも
各々の島を制圧するつもりか
小賢しいわ
合図を!!
!

城から狼煙?
なんの合図!?
!
誰もいないはずの小島から
増援が!!

船が来る
乗っているのは味方ではないらしいが
マルスさまのいる二の島へ向かう船が少ないのが何よりだ
他の島のように魔道士がいないこの部隊は敵の増援の乗る船を上陸前に沈めることはできない
白兵戦だな

シーダさま 囮の大役 ご苦労さまでした
ばさ
呑気に礼など言っている場合!? オグマ!
来るわよ
もう王子の「影」を演じなくてもいいが 弓手兵は前線に出るな ゴードン
でも
防具をつけろ 矢を無駄遣いするなよ
ふむ 確かにここの軍は不利じゃのう こっちに来て正解じゃ
ぎょっ
バ バヌトゥ!!

シスターたちといっしょにワーレンで待機してたんじゃなかったのか!?
何を言うわしとて解放軍の一員じゃぞ
武器もないのに!?
我こそが武器!
危ないよっ敵が…
てくてく
まずマルス王子に見せられぬのが残念じゃが
この先幾度となくお目にかけられようぞ!!

ビギビギ
ビギビギ
ズオオ
な
…まさか
本当に——!!

ぐあっ
竜人族が支配する地で竜人族の味方がいるか！
マルスさまの強運ときたら…
ゴオオ
すごいバヌトゥいけるぞ！
早くこの島を制圧してマルスさまのもとへ…

えっ…
ドドガッ
ぎゃあッ
がっ
ダッ
囲まれていることに何故気づかん!!

解放軍アリティアの弓手兵は立って寝るのか
なっ…
はっ
おれはアカネイアのジョルジュ翔弓兵だ
翔弓兵
弓手兵より力も技術もすべてが上回る弓手兵なら誰もが望みあこがれる

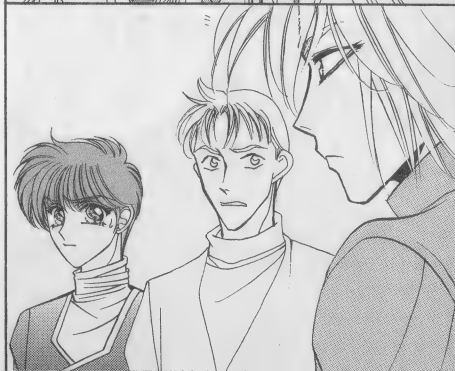
ひとつの国にひとりいるかいないかといわれる弓の名手
塩を含んだ海風が建物を崩すから少しずつ建て増しをくり返しているんだ
そのせいでどの島も建物が入りくんでどこに敵が潜んでいるか判らん
捜していた解放軍がこんなところでやられてはたまらん
各島に軍が分散していては不利なままだまずはひとつの島を陥とすのが良策だろうが！
！
ドス
ぴく

ほう
ナバールと同じ呼吸で敵を察するか
さすが、翔弓兵
……
弓をひいて射るんだ その一動作分おれの方が速い
マルス王子はどこの島におられる？
ゴオオ…
…一番小さい二の島に
よし 陥とすのはそこからだ 二の島へ渡る船の船着き場はここから近い 急ぐぞ！
…なんなのあの人っ
しかし いちいち あのジョルジュの言うことはもっともです
シーダさまは三の島の連中に二の島に急行するよう伝令を！ バヌトゥにも!!

ご報告申しあげますマヌーさま――
解放軍に竜人族がいるだと!?
裏切り者が!!

わしのことはこのペラティのドルーアの将である竜人族のマヌーに知れたであろうよ
もはや奴にとってわしは敵でしかない
マルス王子わしはおぬしの役に立てそうかの

ドルーアを倒し
ドルーアの敵となるならば
我々の味方だ
歓迎するよ
バヌトゥ
先の戦いぶりを
見て異議を
唱える者も
いないだろう
ヤ…ツ
我が忠誠を
我が君に
ジョルジュ
だったね
アカネイアの
翔弓兵
ようこそ
我が軍へ
時に
此度の策は
王子の発案で
ございますか?
…ああ
!
あの人
何を言う
つもりだ

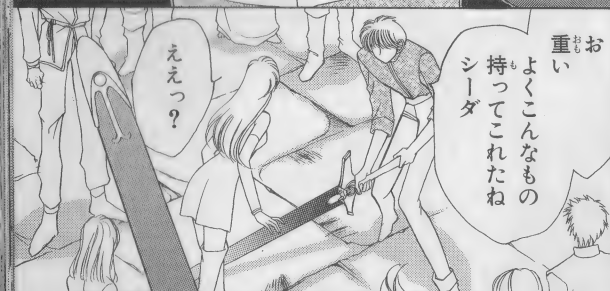
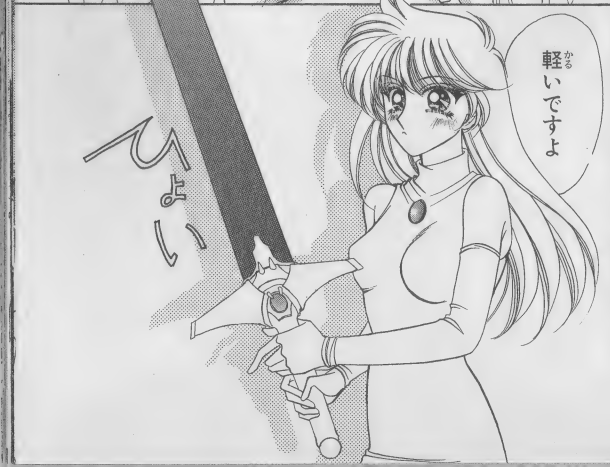
きみのおかげで
三の島四の島の
兵たちもいたずらに
失わずにすんだし
この二の島を
早くに制圧できた
礼を言うよ
私などに
もったいなきお言葉
炎の紋章を
持たれる御身が
もっと王子が
策を練られれば・・・・
一介の翔弓兵に
頭を下げることなど
ないというのに

弓手兵のおまえが前線から一歩ひいていたのは保身のためか?
ちっ違います!
なのに囲まれたことも判らなかったと?
もっとましな言い訳をしてみろアリティアの弓手兵!
……っ
アカネイアの翔弓兵

☆第12話/火竜I☆END

ファイアーエムブレム
FIRE EMBLEM
TM
©1990 Nintendo
第13話
火竜 II
かりゅう

なあ
ジュリアンの
兄貴
なんだよ
リカード
シーダ姫さまは
兄貴の秘密の
万能鍵借りて
何なさる
おつもりかなぁ？
ザァァ
そりゃあ
決まってらぁ
神殿にある
お宝を取って
きなさるん
だろうよ

シーダさま
お戻りです
東の神殿に
ひとりで
行ったって!?
なんと
危険なことを!!
マルスさま
宝を手に
入れました!
だって
じっとしてなど
いられなかったん
だもの!
神殿では
人の気配や
魔物の気に
敏感な天馬の
エルカイトも
騒がなかったし

ぱら
剣？
これが宝？
ズン
うわ
お
重い
よくこんなもの
持ってこれたね
シーダ
ええっ？
軽いですよ
ひょい

それは竜殺しの剣じゃ
バヌトゥ
強い「人」の意思を感じます
この剣を作った人のものでしょう
シスターの言う通り人の思いは時に理屈と時間を超える
竜人族を倒そうとする強い思いのもとうたれた剣なのじゃよ
鋼のような竜の鱗をもやすやすと斬り裂き普通の武器の何十倍もの傷と苦痛を与えるという
竜人族を殺すことのできる剣
また持つ者を選ぶともいわれるが

だけど
重くて
手に余る
…持てないというのか
このぼくには
竜殺しの剣を
持てない
このぼくが
マルスさま
――
では
この竜殺しの剣は
おまえに
まかせよう
オグマ
は
持てるだろう？
きっとね

よくやってくれた
シーダ
心強い武器だ
出陣の
その時まで
大切に保管
しておくように
会議に戻るよ
ハーディンを
待たせて
いるんだ
わたし
余計なことを
したのかしら…
こうなることを
誰も知ってた
わけでは
ありません
マルスさまのために
シーダさまが
なさったこと
それは
世界の何よりも
真実で
正しいことです

解放軍は
ジョルジュさんっ
善人ばかりだな
その優しさが身を滅ぼさねばいいが
……う……
ジョルジュさん…っ
ジョルジュのいた隊は彼を逃がすために全滅したらしい
アカネイア王家の宝のひとつ聖炎弓をドルーアからとり戻して

大陸で一、二を争うという腕の翔弓兵のジョルジュに総てを託して彼の仲間は——
気持ちが敏感になっているんだ彼の言動は仕方がないよ
ジョルジュさんっ
何か用かアリティアの弓手兵
はーはーっ
あ、足痛い…い
ゴードンですっ
…ゴードンです「アリティアの弓手兵」じゃない
はあ
あなたの仲間のゴードンなんですおれは！

ああ そうか
事情を知ったか？
おれが仲間を
見捨てて
逃げたって

そんな…っ

かまわんさ
本当のこと
だからな

知ってるか
王家の宝
聖炎弓には
弦がない
おれたちも
ドルーアから
奪い返して
知ったんだが

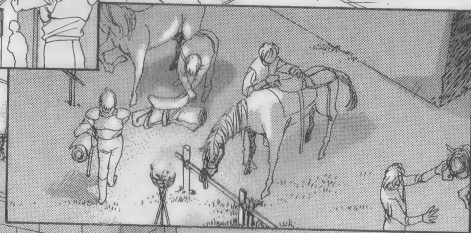
普通の弦では
聖炎弓に
耐えられない
すぐ切れるんだ
専用の弦が
何処かにあるのか
それとも聖炎弓は
ただの王家の
飾りに
すぎないのか

おれがいくら翔弓兵でもあれではどうしようもない
生き残っても途方に暮れるな
なんでそんな時間があるんですかあなたには
途方に暮れてる時間があればドルーアと戦えばいい
今この時に弓手兵でも翔弓兵でもやることはひとつしかないのに

仲間のために
自分のために
戦えばいいじゃないですか!!
…翔弓兵は
弓手兵の
…おれの
憧れで目標で
黄金色の髪と紺碧の瞳の
思ってた以上に
「翔弓兵」
そのままの姿で
会えるとも
思ってないほど
だから

驚いた
ジョルジュさんが解放軍に来てくれて…その
うれしかっただろう
ええん
ぐ
うれしくて
うれしかったのに今のジョルジュさんじゃそのうれしさも半分に減ってしまいますっ
真実はひとつだおれは今ここに生きている
つまり仲間を見捨てたということだ
あなたの仲間は誰もあなたに見捨てられたなんて思ってるわけないでしょうっ!?

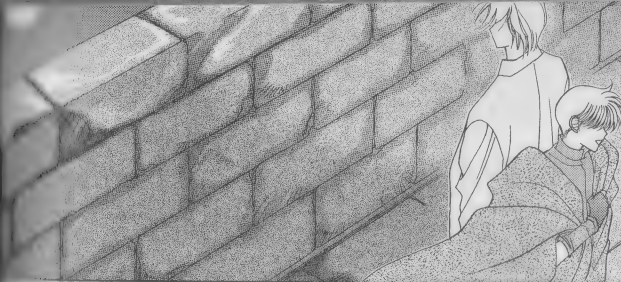
真実はひとつでも
視え方は
ひとつとは
限らないのに
ジョルジュさんが
そんなんじゃ
あなたを
逃がすために
命を懸けた
あなたの仲間が
かわいそうです
…っ!!
……………
おれの仲間は
まだ死んだとは
限らないんだが
しっ
失礼しましたっ
だから
おれはまた
おまえたちを
見捨てるかも
しれないという
ことだ

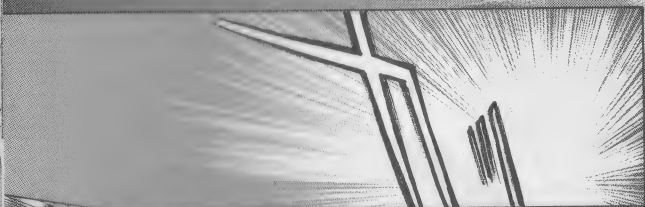
ジョルジュさん——
城陥としの日時が決まった次の満ち潮この月が落ちる頃だ
準備を怠るな
ミ

やあ ジョルジュ こんばんは 君も眠れない？
マルス王子！ こんな夜更けに供もつけず…
ちょっと ひとりに なりたいことが あってね
想像はつく だろう？ 竜殺しの剣の ことだよ
…神殿に あったような剣 なのですから
なにかどこか 特別なの でしょう 王子にも いつか…きっと
君は嘘や ごまかしが 苦手な性格らしいね
あはは

君は信じられる人だね
さすが翔弓兵
聖炎弓は今ぼくの部屋にあるよ
オレルアンにいるニーナさまには使者を出したから知ったら喜ばれるだろうね
弦のない弓か
使えない弓
使えない剣
なんとなくね竜殺しの剣をぼくが持てない理由判っているんだよ

あの剣が使えたら
ぼくは真っ先に
城につっこんでゆく
だろうから
!
後先考えずに
自分の立場も
忘れて
そうだ
「炎の紋章」すら
打ち捨てて
竜人族に
国と家族を
めちゃくちゃにされた
その恨みだけで
動いてしまう
きっと途中で
殺されるね

でも
それは許されない
それは
だめだからね
ぼくはまだ
死ねない
ぼくは姉王女と
城と国を見捨てて
生き残って
しまったから
姉上と城と国を
取り戻すまで
死ぬわけには
いかないいんだ
伝説も神話も
かなわない
ここに生きている
そのことがすべて

嘆いたり
途方に暮れている
時間があるものか
他にすることが
あるだろう
今ここにいない
誰かのために
今ここにいる
誰かのために
自分のために
自分ができること
ぺた
…なんですか
王子
ぺた
ぺた
ぺた
ぺた
いや翔弓兵って
滅多にお目に
かかれないって
いうから
でも
どこも特別
違っている
ところなんか
ないね
翔弓兵といえど
何も
変わらない

翔弓兵だから生き残ったということではないジョルジュ
おまえの仲間はおまえという「仲間」を逃がしたんだ
聖炎弓とアカネイアの仲間とそして自分を誇るといい
我ら新しい仲間のために
…怖い王子さまだ
いや

怖い方だ
炎の紋章の重さを自分の力にしてしまう
これは甘く見ていたぞ

わああああ
マヌーさま
城門を突破されました！
近づいてくる
マヌーさまっ
あの剣
竜殺しの剣
あんな身近な神殿に
封印されておったとは…っ
ドスドドァ

すごい
なんて腕だ
ジョルジュのやつ
ジョルジュさん
――
！
ジョルジュさんっ
聖炎弓を!?
マルス王子に
無理を言って
持たせてもらった
ニーナさまに
知れたら
大事だがな

離れて戦う気にはなれない
アカネイアの仲間が他の誰でもないこの自分を信じたその証
これが今のおれの命だ
その通りですジョルジュさんっ!!
『雷牙』!!

その剣重いのならいつでも代わるぞオグマ
ぬかせ!
先行隊のマリクと竜殺しの剣を持つオグマで敵将マヌーにいくらかでも傷を負わせて
その間に残りの兵が王座を包囲して絶え間なく攻撃すれば竜人族でも…
!?

うわっ
王子
マルスさま!!
ほーう
マルスと…?
竜殺しの剣から
逃れて
後方から隊を
乱してやるつもりで
来たのだが
何が幸いするか
判らぬなぁ
ブチッ

お前は
お前がマヌー!?
マルスさまっ!!
しまった
バヌトゥは
隊の最後を
護っている

飛竜なら羽のつけ根が弱点なんだけど…っ
ロ
おいっ
ゴードン
ドドッ
馬鹿がっ

グアアアッ
ドカッ
ばっ
万物共通の弱点は
目だ!!
弓手兵がいきがるな
ひどいやジョルジュさん
火を吹く?
逃げろゴードンジョルジュ!!
でも…きっとおれは
目に命中なんかさせられない
行ってください

こんなところで
あなたを
死なせたら
アカネイアの
仲間と
解放軍の仲間に
怒られます
ドクン
何よりおれが
…悲しい
翔弓兵を
おれのせいで
死なせるなん…て
おれの…夢の…
ドクン
ジョルジュ！
ゴードン!!
ザッ

死なせるか
馬鹿が
ジョルジュ
ゴードンッ

ぶわっ
!?
おれの目の前で
死ねると思うな
ふたりとも
無事で
──
!
あれは
聖炎弓?
おれの仲間が!
弦が
───!!
ジョルジュの意思に
従うように
シュ
シュ
シュ

!
火の弓

矢が炎に！
ジョルジュは
平気なのか
オオオオ
聖なる炎
あれが聖炎弓の力
黄金色の
炎
！

グアアッ
竜人族にも聖剣裂風は効きますマルスさま
間に合った
来てくれたか
マリク!
ということは
——
オグマ

弦が戻ってしまったって？
はい あの後すぐに炎も出ません
あの時はもっと軽くも感じられましたが
未だ私は正式に聖炎弓を使える身ではないということですか
そうかもしれないね でも あの時 ゴードンを助けようとした時
おれの目の前で死ねると思うな
聖炎弓はジョルジュを認めてくれたじゃないか

仲間が
あの気持ちを忘れないならきっと聖炎弓はまたおまえを助けてくれるよ
聖炎弓はだからおまえに預けよう翔弓兵ジョルジュ
ぼくが竜殺しの剣を持てるようになるのが先かお互いがんばろう
ぽんぽん
…マルス王子は本当に片手で島を持ちあげられるかもしれないな
・・・られるぞ知らなかったのか
……
ジョルジュさん
あの
通りすがり

助けていただいてありがとうございましたっ
人の思いは
また戦場で矢を外されてはたまらない
くしゃ
今度 弓を教えてやるよ・・・ゴードン
時に理屈と時間すら超える
世界だって動かせる
はいっ
✡第13話／火竜II✡END

ILLUST. GALLERY

イラスト・ギャラリー

✡イラスト・ギャラリー✡END

初　出

ファイアーエムブレム　第10話／剣楯Ⅰ　1996年「ファンタジーDX」2月号掲載
ファイアーエムブレム　第11話／剣楯Ⅱ　1996年「ファンタジーDX」3月号掲載
ファイアーエムブレム　第12話／火竜Ⅰ　1996年「ファンタジーDX」9月号掲載
ファイアーエムブレム　第13話／火竜Ⅱ　1996年「ファンタジーDX」10月号掲載
イラスト・ギャラリー　1996年「ファンタジーDX」2月号～10月号掲載

ファイアーエムブレム 4

あすかコミックスDX

著者――佐野真砂輝＆わたなべ京

発行者――角川歴彦

発行所――株式会社角川書店
〒102 東京都千代田区富士見2-13-3
振替／00130-9-195208 電話／編集部03-3238-8646 営業部03-3238-8530

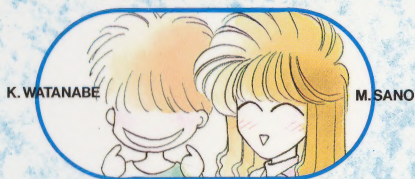
装丁――末沢瑛一

印刷――廣済堂印刷株式会社

製本――廣済堂印刷株式会社

初版発行――1997年4月1日

〒354 埼玉県入間郡三芳町藤久保557-2 角川ブック・サービス
ISBN4-04-852790-8 C0979
Printed in Japan

P R O F I L E

佐 野 真 砂 輝

☆さのまさき
12月19日生まれのB型
東京都出身

わ た な べ 京

☆わたなべきょう
8月16日生まれのO型
大阪府出身

デビュー作は「スプラッシャー」。

佐野真砂輝&わたなべ京の本

あすかコミックス
トーキョー・ガーディアン 1 ～ 7
あすかコミックスDX
ファイアーエムブレム 1 ～ 4
ファイアーエムブレム外伝

9784048527903

ISBN4-04-852790-8

C0979 ¥520E

1920979005204

角川書店　定価：本体520円（税別）

マルスたち解放軍による制圧でドルーア軍はワーレンから
撤退したかに見えた。しかし、首都アカネイアに抜ける山あいの砦に
集結し、解放軍を待ちぶせしていた——!!